

## 成果の説明書

(氏名) 安田 慎	(学部) 地域政策学部
<b>1 重要事項</b>	
<b>&lt;研究・書籍&gt;</b>	
(1) 安田慎. 2020. 「イスラームの巡礼」 四国遍路と世界の巡礼センター編『四国遍路の世界』ちくま書房, pp. 239-253.	
(2) Yasuda, S. 2020. New Narratives in Valuistic Travel and Identity: Goshuin Culture and Religious Mobility in Contemporary Japan. In D. Liutikas ed. <i>Pilgrims: Values and Identities</i> . Wallington: CABI, pp. 127-136.	
(3) 千葉悠志・安田慎編. 2021. 『現代中東における宗教・メディア・ネットワーク イスラームのゆくえ』春風社. (共編著) (第3章: 「白い異邦人から真正なる巡礼者へヨハン・ルードヴィヒ・ブルクハルトのマッカ巡礼経験をめぐる再帰性と超越性」 pp. 79-100.)	
(4) 安田慎. 2021. 「フォトジェニック・イスラームが開示する神の真理—デジタル空間におけるイスラーム的コミュニケーションの宗教的真正性」小西卓三・松本健太郎編. 『メディアとメッセージ 社会のなかのコミュニケーション』ナカニシヤ出版, pp. 47-59.	
(5) 安田慎. 2021. 「ハラール産業」島田弦・桑原尚子『多様な法世界における法制度支援』旬報社, pp. 555-591.	
<b>&lt;研究・学術論文&gt;</b>	
(6) Yasuda, S. 2021. Spiritual Legitimacy in Contemporary Japan: A Case Study of the Power Spot Phenomenon and the Haruna Shrine, Gunma. <i>Religions</i> 12(3), 177. <a href="https://doi.org/10.3390/rel12030177">https://doi.org/10.3390/rel12030177</a> (査読あり)	
<b>&lt;研究・学会発表&gt;</b>	
(7) 安田慎. 2020. 「モルディブにおけるイスラミック・ツーリズム戦略—観光のジレンマのなかのcommons論をめぐるイスラーム的転回」『観光学術学会 2020 年度研究報告要旨集』 pp. 66-67.	
(8) 安田慎. 2020. 「モルディブにおける観光ガバナンスをめぐる考察—観光のジレンマにおける社会的費用のシェアをめぐって—」『第 35 回日本観光研究学会 全国大会 学術論文集』 pp. 9-12.	
(9) Yasuda, S. 2020. ‘Symbolic Recovery’ in the Process of Aleppo’s Cultural Heritage Reconstruction. The 10th International Conference of Museums for Peace. Ritsumeikan University (Online).	
<b>&lt;事典項目・エッセイ&gt;</b>	
(10) 安田慎. 2020. 「観光産業」日本沙漠学会編. 『沙漠学事典』丸善出版, pp. 352-353.	
(11) 安田慎. 2020. 「エコツーリズム」日本沙漠学会編. 『沙漠学事典』丸善出版, pp. 354-355.	
(12) 安田慎. 2020. 「観光産業」鈴木薫・近藤二郎・赤堀雅幸編『中東・オリエント文化事典』丸善出版, pp. 356-357.	
(13) Yasuda, S. 2021. Reformulating Religious Tourism after COVID-19: Reflections on Area Studies from the Perspective of Mobility. Khashan, A. & Kuroda, A. eds. <i>Asia and Japan Today (1): Researchers’ Essays at the Arrival of a New COVID Era</i> . AJI Editorial Office, OIC Research Office, Ritsumeikan University Osaka Ibaraki Campus (OIC), pp. 55-61. (安田慎. 2020. 「COVID-19 以後の宗教観光を構想する—モビリティから地域研究を考える(同英語エッセイ: Reformulating Religious Tourism after COVI-19: Reflections on Area	

Studies from the Perspective of Mobility)」立命館大学アジア・日本研究所 研究者エッセイ「アジアと日本は、今」第9回)

#### <その他>

- ・上智大学イスラーム研究センター主催・中東セミナー “On the Way to Mecca in the 19th and early 20th centuries: a modernized sacred journey”のコメントーターを務めた。
- ・査読論文2本（国内誌）を担当した。

**教育：**担当科目（観光政策論、観光学概論、ツアープランニング論、基礎演習、演習I、II、卒業論文、大学院：観光政策特論）を担当した。特に、卒業論文では1期生12名の卒業論文を発行した。

- ・横浜市立大学、立教大学、帝京大学とともに、観光系ゼミでのオンライン合同ゼミを実施した（2021年2月2日）。

**社会貢献：**地域科学研究所主催の公開講演会において「リスク社会のなかのモビリティーマルディブ観光から考える」を講演した。

- ・地域科学研究所主催の市民ゼミナールを主催した。
- ・上智大学イスラーム研究センター主催連続公開講演会「イスラームおよびキリスト教における崇敬の人類学：一神教の聖者たち、聖人たち」において、「聖者に仮託する人生：シリアにおけるサイイダ・ザイナブ廟とカルバラーの人びと」の講演をオンデマンド方式で行った。
- ・立命館大学中東・イスラーム研究センター主催「中東・イスラーム研究の新地平 ウィズコロナ時代のチャレンジ」（2021年1月9日）でセッションの司会を務めた。
- ・立命館大学人文科学研究所主催「COVID-19 以後のモビリティ研究」（2021年3月6日）において、シンポジウムのパネリストを務めた。
- ・大学の広報活動の一環として、栃木県立矢板東高校で模擬講義を行った。

## 2 その他の事項

**委員等：**①日本中東学会 事務局長、②観光学術学会 広報委員、次世代検討委員（～7月まで）、評議員、編集委員（7月～）、将来構想具体化委員会（2021年2月～）、③ International Journal of Religious Tourism and Pilgrimage Editorial Board、④ぐんまダイバーシティネットワーク、機関代表者

**共同研究等：**①日本学術振興会 科研費 基盤研究（A）「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」研究分担者、②日本学術振興会 科研費 学術変革領域研究（A）「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造」研究分担者、③日本学術振興会 科研費 基盤研究（A）「イスラーム神秘主義の構造的理解-スーフイズム・タリーカ・聖者信仰複合現象の解明」研究協力者、④日本学術振興会 科研費 基盤研究（A）「現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」研究協力者、⑤日本観光研究学会分科会「観光政策に対する学術的視座の検討分科会」メンバー、⑥高崎経済大学地域科学研究所研究プロジェクト「現代の地域におけるリーダーシップのあり方の研究」プロジェクト・メンバー

## 3 次年度以降の計画・抱負

- ・引き続き関連する研究・教育・社会貢献課題について進めていく。特に、ゼミナール活動については、新型コロナウイルスの関係で国外調査を実施することが困難な状況から、国内でも可能な活動を模索する。
- ・研究では、既に投稿・校正を行っている論文・書籍の発行を目指す。
- ・社会貢献活動では、今年度のオンライン授業や研究活動での蓄積を生かし、地理的空間に囚われない形での社会貢献の形を積極的に模索し、実行していく。